

第 15 回 IDBF クラブクルー世界選手権大会大会後記

【シニア A オープンスモール報告書】

東京龍舟シニア A オープンキャプテン 南野健一

1. はじめに

2026 年 9 月 1 日～5 日、台湾・花蓮にて開催された「第 15 回 IDBF クラブクルー世界選手権大会（CCWC）」に、東京龍舟シニア A オープンチームとして出場いたしました。前年までの世界選手権をはじめとするこれまでの国際舞台での経験と、今シーズンの徹底的な漕ぎ込みを踏まえ、本大会では「全種目グランドファイナル進出」を目標に掲げて挑みました。

日本ドラゴンボート協会をはじめ、日頃より当チームをご支援・応援いただいている皆様に深く御礼申し上げます。

2. 出場選手

野田哲男、楡木栄次郎、若狭和也、吉田圭吾、尾寅慎介、下郡洋介、道中靖都、長谷川尚輝、緑川浩章、林志堅、岩松隼人、岩井康子、北川由希、渡邊真希子、南野健一

3. 大会結果概要

本大会では、競技初日の 500m から始まり、200m、2000m の 3 種目に出場いたしました。

200m において銀メダル（準優勝）を獲得したほか、500m でも決勝 4 位に入賞し、掲げていた目標を達成するとともに、世界トップレベルのクラブチームを相手に一定の存在感を示すことができたと考えております。

【500m (9 月 1 日)】※全 18 チーム出場

- 予選 (Heat 2) : 8 チーム中 4 位 (タイム 2:17.22)
- 敗者復活 (Repechage 2) : 1 位 (タイム 2:18.84) → Grand Final 進出
- Grand Final : 4 位 (タイム 2:15.59)

順位	チーム名	タイム
1	UNYTED Queens	2:12.27
2	Neckardrachen Heilbronn	2:13.35
3	AZS WSG Bydgoszcz	2:14.86
4	Tokyo Dragon	2:15.59
5	Te Waka Dragons Brisbane	2:16.01
6	Evolution Paddling Club Toronto	2:16.36

7	Dream Hunter-Yilan Dongshan Chinese Taipei	2:16.43
8	Mimura DBC Chinese Taipei	2:16.83

【200m (9月3日)】※全 17 チーム出場

- 予選 (Heat 3) : 5 チーム中 2 位 (タイム 52.56)
- 準決勝 (Semi 2) : 8 チーム中 2 位 (タイム 52.05) → Grand Final 進出
- Grand Final : 準優勝 (2 位 / 銀メダル獲得) (タイム 51.25)

順位	チーム名	タイム
1	UNYTED Queens	50.47
2	Tokyo Dragon	51.25
3	HKUST Alumni Dragon Boat Club Hong Kong	51.45
4	Evolution Paddling Club Toronto	51.50
5	Neckardrachen Heilbronn	51.54
6	Dream Hunter-Yilan Dongshan Chinese Taipei	51.93
7	AZS WSG Bydgoszcz	52.10
8	Te Waka Dragons Brisbane	52.70

【2000m (9月5日)】※全 15 チーム出場

- 決勝 (Final) : 8 位 (タイム 10:01.66)
- (上位 8 チームのタイム)

順位	チーム名	タイム
1	UNYTED Queens	9:37.10
2	Neckardrachen Heilbronn	9:38.58
3	Evolution Paddling Club Toronto	9:54.88
4	AZS WSG Bydgoszcz	9:55.53
5	Te Waka Dragons Brisbane	9:56.71
6	Kurpfalz Dragons Mannheim	9:59.23
7	HKUST Alumni Dragon Boat Club Hong Kong	10:00.52
8	Tokyo Dragon	10:01.66

4. レース展開および戦評

■ 500m

大会初日の 500m 予選は、準決勝への直接進出を狙ったものの僅差で 4 位となり、敗者復活戦へ回る苦しい展開となりました。

しかし予選タイム自体は他ヒートの 1 位を上回り全体でも 4 位であったこともあり、続く敗者復活戦では狙い通りのレース展開で 1 位通過を果たし、決勝へと駒を進めました。

グランドファイナルでは、チームベストとなる「2分15秒59」をマークしたものの、3位の AZS WSG Bydgoszcz（ポーランド / 2分14秒86）まであと0.73秒届かず4位となりましたが、世界の強豪クラブと真っ向から表彰台を争うパフォーマンスを出すことができました。

スタートから300m付近まではメダル圏内につけていたものの、後半に差される展開となってしまいました。

■ 200m

他国と比較して体格が小さく体重も軽い部類に入る日本チームの強みである「スタートの爆発力」が有利に働くため、200mが最もメダルの可能性があると思込んでおりました。

予選（52秒56）、準決勝（52秒05）、決勝（51秒25）と、レースを追うごとに浮き彫りとなった課題を潰し、タイムを計1.31秒短縮する修正力を発揮いたしました。

決勝では、優勝した UNYTED Queens（アメリカ）に次ぐ2位でフィニッシュ。

3位の HKUST Alumni（香港 / 51秒45）の猛追を0.20秒差で抑え込み、銀メダルを獲得いたしました。

チームとして磨き続けてきたスタートの爆発力と維持力が世界に通用することを証明できたレースとなりました。

■ 2000m

最終日に行われた2000m一発決勝では、激しい風雨の過酷なレーンコンディションの中、10分01秒66の8位でフィニッシュいたしました。

長距離での巡航スピードの維持および2000mを漕ぎきる持久力に課題を残したものの、全力を出し切ったレースとなりました。

5. 総括と今後の展望・課題

本大会を通じ、アメリカやドイツなどをはじめとする世界の強豪クラブと互角以上に渡り合うことができ、昨年の世界選手権からの確実な成長と進歩を実感しております。

今大会の戦績を踏まえて確認できたことは、シニアにおいてはもはやグランドファイナル進出がゴールなのではなく、メダル獲得こそが目標であるということです。

一方で、上位勢（特に優勝チーム）とのタイム差を分析すると、距離が伸びるにつれて艇速の維持力に課題が残ります。

また、中国やタイといった絶対的強豪が参戦するフルスペックの世界大会でも好成績を収めるため、今後は以下の点の強化が必要であると考えております。

1). ベースとなる筋肉量・筋力の底上げ（フィジカル強化） 欧米勢のパワーに対抗するためには、体重や体格のハンデを補うだけの「絶対的な筋力および筋持久力」の強化が不可欠です。水上での練習に加え、陸上でのウェイトトレーニングの頻度・強度を見直し、選手個々の筋質量および出力を向上させる必要があると感じました。

2). 中盤～終盤のスピード維持力・持久力の向上 500m の後半 100m で見られた追い上げを許さないため、スタートの強みを維持しつつ、後半まで出力を落とさない持久力の強化を図ります。

3). 世界トップレベル（優勝タイム）へのタイムアップ 強豪国（中国、タイ等）が参戦するであろう次回世界大会を見据え、今回の 1 位チームのタイム（200m: 50 秒台前半、500m: 2 分 12 秒台）を常に出せるレベルを目標に設定し、チーム全体の水準を 1 段階引き上げていきたいと思ひます。

6. おわりに

今大会での結果は、選手一人ひとりの努力はもちろんのこと、日頃から温かいご支援とご指導をくださる JDBA 関係者の皆様、そして共に国内で切磋琢磨している日本のドラゴンボートファミリーの皆様ののおかげです。

東京龍舟は、今回の成果に甘んじることなく、「世界大会でのグランドファイナル常連化および表彰台獲得」を目指し、チーム一丸となってトレーニングに精進してまいります。今後とも変わらぬご支援・ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【シニア A 混合スモール報告書】

東京龍舟シニア A 混合キャプテン 林志堅

このたび、CCWC で senior A mixed small のキャプテンを務めました、東京龍舟のりんです。

はじめに、今回の大会で現地サポートをしてくださった JDBA の菖蒲さん、松尾さん、本当にありがとうございました。

そして、磯風漕友会、漕遊人、Yasha Dragons の皆さま、会場での応援ありがとうございました。

国内からも Live 中継を通じてたくさんの応援をいただき、その声援が本当に力になりました。

■500m

セミファイナル 6 位 2:23.74

決勝進出まで、わずか 1.53 秒。

1 位 TNPC (2:15.41) カナダ

2 位 H2O Montreal (2:15.66) カナダ

3 位 ACCA Dragon Boat Racing Team (2:18.83) オーストラリア

太鼓・下郡洋介 舵・渡邊真希子

左 南野健一 右 北川由季

林志堅 岩井康子

小島葉子 緑川浩章

尾寅慎介 楡木栄次郎

江口由利子 坂本万美

リザーブ 長谷川尚輝・道中靖都

■200m

決勝 5 位 54.36

メダルまで、あと 0.19 秒届かず。

1 位 H2O Montreal (51.55) カナダ

2 位 TNPC (51.72) カナダ

3 位 Steel Dragons (54.17) ニュージーランド

太鼓・坂本万美 舵・長谷川尚輝

左 南野健一 右 林志堅

渡邊真希子 北川由季

小島葉子 緑川浩章

尾寅慎介

楡木栄次郎

江口由利子

岩井康子

リザーブ 下郡洋介・道中靖都

今回 MIX に出場した男子メンバーは、同時オープンカテゴリーにもエントリーしており、連日のレースとなりました。

さらに、レース艇は初めて乗るタイプのもので、かなりの不安定さや足場の広さ（遠さ）に最初は苦戦しました。

それでも、レースを重ねるごとに少しずつ艇にも慣れ、タイムを見ても分かるように、どのレースも最後まで勝負できる接戦となりました。

だからこそ、悔しい。

「まだまだやれたはず」という思いが残っています。

今回の経験を無駄にせず、さらに成長して、次回は確実にメダル争いに絡めるチームをつくりたいと思います。

そして、もう一つ強く感じたことがあります。

日本には、まだまだ多くのシニアパドラーがいます。

だからこそ、国内レースでもシニアカテゴリーをもっと増やし、シニア同士が競い合える環境をつくっていかれたらと思います。

競争が増えれば、個人もチームも必ず強くなる。

A だけではありません。

今回の大会を通じて、B や C のカテゴリーからも多くの刺激を受けました。

日本のシニアパドラーには、まだまだ大きな力があると思っています。

今回の大会を一つのきっかけに、シニア全体をもっと盛り上げていきたい。

その輪が広がり、世界に挑戦する仲間がさらに増えていけばうれしく思います。

そのために、私自身も、これからも挑戦し続けます。

応援して下さった皆さま、本当にありがとうございました。